

～ 環境に優しい土幌町を目指して ～

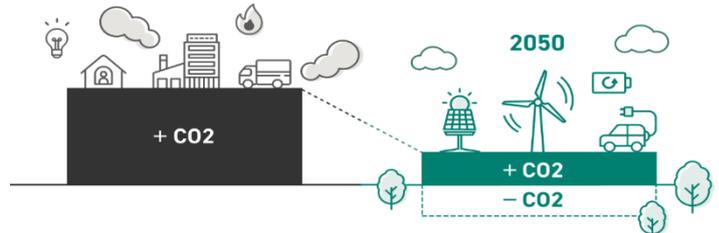
最近、「カーボンニュートラル」という言葉を各メディアで目にする機会が多くなってきたのではないのでしょうか。前回の環境ニュースでは、カーボンニュートラルとは何なのかご紹介しました。今回は土幌町のこれまでの取り組みや現在の状況についてお伝えしたいと思います。

### 【おさらい】

**カーボンニュートラルとは** ～「温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること」

令和2年10月、菅内閣総理大臣は臨時国会の所信表明演説で「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

これは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。



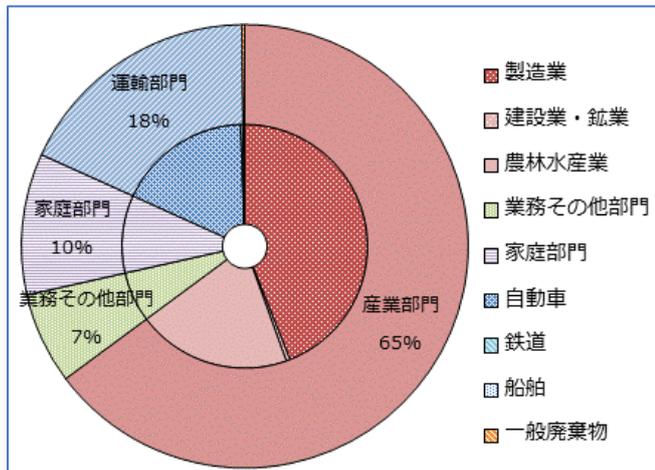
### 土幌町のこれまでの取り組み

- 平成17年 環境マネジメントシステム 導入
- 平成19年 環境基本条例 制定
- 土幌町新地域エネルギービジョン 策定
- 平成20年 環境基本計画 策定
- 平成30年 第2期環境基本計画 策定

この間、環境マネジメントシステムによる公共施設におけるエネルギー消費の削減や、各種計画等に基づき、公共施設等への太陽光発電の導入やバイオガスパラントの建設などを進めてきました。

### 土幌町の現在の状況

土幌町の部門別CO2排出量



土幌町では既に導入されている再生可能エネルギーや森林による吸収量が約20千t-CO2とされており、**実質10.8千t-CO2排出している**ということになります。

部門	排出量 (千t-CO2)	構成比 (%)
合計	128	100%
産業部門	83	65%
製造業	56	44%
建設業・鉱業	1	1%
農林水産業	26	20%
業務その他部門	9	7%
家庭部門	13	10%
運輸部門	23	18%
自動車	23	18%
旅客	8	6%
貨物	15	12%
鉄道	0	0%
船舶	0	0%
廃棄物分野 (一般廃棄物)	0	0%

出典：環境省「自治体排出量カルテ」より

排出量全体の内、約65%が産業部門を占めており、その他運輸部門、家庭部門と続きます。土幌町の地域特性上、製造業及び農林水産業が多くを占めていることがわかります。

土幌町においては、これまでも再エネの導入や環境配慮による取組を進めてきましたが、今後も一層脱炭素社会の実現に向けた取組に努めていきます！